茅野市ミュージアム活性化事業

（アート×コミュニケーション茅野#3）

ちのを編む

2016年10月29日（土）
会場：茅野市民館イベントスペース

プレイベント

ゲスト

宮崎晃吉

Mitsuyoshi MIYAZAKI
建築家　HAGISO代表

1982年群馬県生まれ。HAGISO代表。一級建築士事務所HAGISTUDIO代表。東京芸術大学建築科非常勤講師。京都造形大学非常勤講師。2008年東京藝術大学大学院美術研究科建築設計　六角研究室を修了後、2008年～2011年磯崎新アトリエに勤務。2013年より東京谷中にて、解体予定だった築58年の木造アパート「萩荘」を再生した「最小文化複合施設」HAGISOを設計・運営。

身の回りをゆたかな場所に

（ゲストトークより）

これからは編集する視点が必要。ものを持て余す状況になっている。所有するよりうまく使えるかどうか。建築家はものをつくるものだったが、これからは使い方のプロにならないと…と思っている。そこを拡張していくと街をどう使っていくかということにつながる。「HAGISO」は谷中にある築50年の建物。学生時代に共同で借りていた場所で、取り壊される予定だったものを、事業計画のアイディアを出し、最小文化複合施設として運営。カフェ、美容室、ギャラリー、宿泊施設があり、様々なイベントを行なっている。HAGISOを宿泊棟とし、周囲の空き家も使用してお風呂や食事はそれぞれ別の場所に出向いてもらう、街を丸ごと宿とする「アルベルゴ（＝宿泊）ディフーゾ（＝離れ）」を実践している。すでにあるものをしたたかに使っていくたくましさ。一見〈ごみ〉に見えるものに、どう価値を見出していくか。種を植え、ぎゅっと凝縮して花を咲かせ、その株を分けていく。目的は「身の回りをゆたかな場所にしていきたい」。リノベーションは手段のひとつで、手段はたくさんある。

「ないものねだり」から「あるもの探し」

（参加者のクロストークより）

北原　街を元気にしたい。いろいろなコミュニティのひとつとしてアートがある。元気な街というのは若い人が帰って来たくなるような街。きらびやかじゃなくても暮らしてみると「いいじゃん」って思えるような。

八木　「ちのを編む」というタイトルを考えた。茅野市民館の設計・建設に携わり、茅野には当時からいろいろな発見があった。すでに取り壊されてしまったものもあるが、まちと人を編んで行き魅力をもっと発見していきたい。

辻野　茅野にいろいろあるものを気づき直す、そういう編集作業をしていく。茅野は暮らしをエンジョイしていくプレイヤーが実は多い。そのエネルギーが表に伝わっていくと元気になっていくと思う。

三浦　「ないものねだり」から「あるもの探し」。まさに〈編む〉活動だと思う。新しいことを発明していく働き方。働き方とは生き方とほぼ同じ。